


本会記事
■「第55回プラズマ若手夏の学校」開催報告

第55回校長 野尻訓平
(筑波大学プラズマ研究センター)

今年度のプラズマ若手夏の学校(以下、夏の学校)を2016年8月30日から9月2日まで、太平洋に臨む千葉県白子町の「サンシャイン・白子」にて台風10号の雨ニモマケズ風ニモマケズに開催いたしました。日本原子力学会核融合工学部会との共催で行われた今回の夏の学校は筑波大学プラズマ研究センターの大学院生が主体となって運営し、全国から大学生・大学院生47名と講師10名の総勢57名が参加しました。これらの詳細について以下に報告いたします。

<実施内容>

今年度の夏の学校は表1に示すスケジュールに沿い、様々な分野でご活躍されている研究者の方々によるプラ

表1 スケジュール(台風10号に備えた変更を適用したもの。講師の敬称略)

8月30日(火)	
14:30 - 16:00	講義「プラズマ基礎・宇宙プラズマ」(星野真弘)
16:15 - 17:45	講義「磁場閉じ込めと炉心プラズマ」(井手俊介)
18:00 - 19:00	夕食および受付
19:00 - 20:30	講義「プラズマ応用」(北野勝久)
20:30 -	受付, 入浴および懇親会
8月31日(水)	
07:30 - 08:30	朝食
10:45 - 12:15	講義「プラズマ閉じ込めと輸送(理論)」(福山淳)
12:30 - 13:30	昼食
13:30 - 15:00	講義「周辺プラズマとプラズマ-壁相互作用」 (坂本瑞樹)
15:15 - 16:45	企画「Wikipediaプロジェクト」(笠田竜太)
18:00 - 19:00	夕食
19:00 -	レクリエーション, 入浴および懇親会
9月1日(木)	
07:30 - 08:30	朝食
09:00 - 10:30	講義「プラズマ計測」(門信一郎)
10:45 - 12:15	講義「プラズマ加熱」(久保伸)
12:30 - 13:30	昼食
13:30 - 15:00	講義「原型炉設計とITER BA活動」(坂本宜照)
15:30 - 18:00	ポスターセッション
18:30 - 20:30	夕食(BBQ)
21:00 -	入浴および懇親会
9月2日(金)	
07:30 - 08:30	朝食
09:00 - 10:30	講義「レーザー核融合」(藤岡慎介)
10:45 -	閉校式

ズマ・核融合に関する講義や、参加者が発表を行い他者と意見を交換するポスターセッションと企画、そして懇親会やレクリエーションの時間を設けました。今回は台風10号(気象庁評価で「非常に強い」勢力)の直撃が開催直前に危ぶまれたため、参加者の安全を第一にスケジュールを変更し、表1もそれを反映したものとなっています。幸い、全員予定通りに参加することができました。

例年夏の学校の参加者は大学院修士課程1年生が大半を占めることを踏まえ、今年度は講義で参加者がプラズマ・核融合学の基礎を体系的に学べる(復習含む)ことをめざし、各テーマについて基礎的な内容に重きを置くとともに、最近の話題も加えた講義の時間を設けました。講義内容の理解を手助けするためのテキストも講師に作成していただき、冊子にして参加者に配布しました。また、核融合のアウトリーチや参加者の情報発信能力の向上をめざした企画「Wikipediaプロジェクト」では講師の指導の元、参加者が事前に調べたWikipedia上の核融合に関する情報の改善点を話し合い(写真1)、情報の改訂や新規項目の追加も行われました。

ポスターセッションでは参加者の8割が研究発表を行い、宇宙プラズマから核融合関係まで幅広いジャンルの発表が1つの会場で繰り広げられました。2時間半にわたるこのセッション中は学生同士の議論が絶えないほど盛況に満ちていました(写真2)。

懇親会やレクリエーションの場では、打って変わって



写真1 Wikipediaプロジェクト企画でのグループごとの話し合い。



写真2 ポスターセッション。

参加者のリラックスした表情や笑顔が多く見受けられました。ただし、さすが夏の学校と言うべきか、時折真剣に研究について語り合い、酒気帯びポスターセッションも開催されて研究という共通点を持った人々の交流が深まりました。この他にも酒を交わしつつ行われたことは様々あり、私個人的に掲載したい写真も多くあるのですが、プライバシーや倫理的な問題から割愛します。

補足：台風10号の接近に伴うスケジュール変更に関して

今回の宿は最寄り駅から離れているため、駅から宿までのシャトルバスを用意し、ほとんどの参加者は最寄り駅集合となっていました。しかし台風接近に伴い、駅および宿への集合時刻付近は雨風が強いことが気象予報から推測されました。そこで学会の担当者や先生方、宿の担当者と話し合った上で、宿への集合時刻を安全と予想される時刻まで遅らせて参加者への注意喚起をしたとともに、シャトルバスの追加(無理なく元々の予定時刻に到着できた人用に加え、変更後の集合時刻に合わせたものを用意)を行いました。これに伴い、講義時間や受付時間の変更等も行いました。関係者への連絡手段としてはそれまでの電子メールに加え、TwitterアカウントとWebページ、Facebookページを連携させて瞬時に情報公開を行えるようにしました。

〈今回の夏の学校運営を振り返って〉

まず反省点としては、原子力学会核融合工学部会の担当者の方との意見交換を密に行えなかったことがあり、関係者の方々に詫言申し上げます。核融合工学部会との共催は今回で3回目となりますが、1回目と2回目では共催の割り振りが大きく異なっていたこともあり、運

営に関する線引きが固まっていないというのが現状です。運営に関する予算関係など難しい点はありますが、今後の夏の学校幹事校の担当者の方は、核融合工学部会の方々と早い段階から運営に関する意見交換を行っていただくようお願い申し上げます。

次に参加者数をいかに増やすかということに関して反省点や課題は何点かありますが、その内のいくつかとして今回は企業インターンシップの関係で夏の学校に参加できないという声や、金銭的な辛みの声を聞きました。これらを解決するとまではいきませんが、参加者数を増やすためならば就職活動や学会、研究会の日程を考慮して夏の学校の開催に最適だと思われる時期を見極めた上で、開催日数をこれまで主流だった4日間から減らすことも効果的かもしれないと感じました。

これら以外にも至らなかつたことや反省点は多々ありますが、参加者から「今回の夏の学校に参加できて良かった」というお言葉を多くいただいたり、最終日に撮影した集合写真(写真3)に代表されるように宿の名前に負けないくらいの参加者の笑顔が毎日見られたりと、今回の夏の学校も大変有意義なものとなったのではないかと思います。

最後に、ご多忙の中講義・企画にご協力して下さった講師の方々、運営に携わって下さったプラズマ・核融合学会と日本原子力学会の方々、そして参加いただいた学生の皆さまのお力添えのおかげで無事成功裏に終わることができましたことを、この場をお借りして夏の学校学生スタッフ一同深く御礼申し上げます。

次回、第56回プラズマ若手夏の学校は2017年夏、大阪大学主催で行われる予定です。今後の夏の学校の盛衰を祈念します！



写真3 閉校式後の集合写真。笑顔が正にサンシャイン。